

# 授業中にPCB飛散

## 虻田中で蛍光灯爆発

### 生徒一人目の痛み訴える

【洞爺湖】洞爺湖町教育委員会は30日、町立虻田中学校（多須川敏雄校長、167人）で蛍光灯器具が破損し、有害なポリ塩化ビフェニル（PCB）が飛散する事故が発生したと発表した。飛び散ったPCBは授業中の2年生男子3人にかかり、このうち1人が左目周辺の痛みを訴えたため、眼科医院で治療を受けた。

（伊藤教雄）

### 町教委「交換漏れあった」

事故があったのは今月8日午後5時45分ごろ。2年生組教室で道徳の授業中、廊下側後方の吊り下げ式の蛍光灯が異音を発生、直後に「バーン」と爆発。蛍光灯器具の中央にある

細長い反動部材が座っていた男子生徒の頭に落下。器具内に取り付けられていたPCB使用安定器（コンデンサー）から異臭を放つ液体が飛び散り、同生徒の頭と前後の男子生徒

2人のシャツにも付いた。同町は2001年（平成13年）中に小中学校、保育所のPCBコンデンサーを全て安全な器具に交換したとしており、学校側は当初、PCB事故とは疑わせずに生徒に対応。保健室で液体がかつたところを水で洗浄

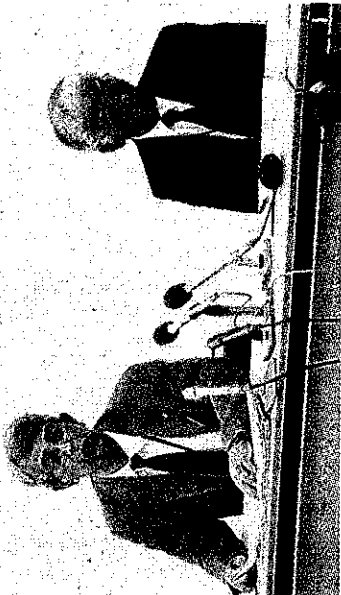
し、シャツを洗濯。傷みを訴えた生徒は教頭付き添いで眼科を受診したが、PCB事故は説明しなかったため、医師はアレルギーの痛みと診断し、点眼薬の処方にとどまった。今は痛みも治まっている。

町教委は事故後、老朽蛍光灯の点検を電氣業者に依頼。その業者から28日に「コンデンサーにPCBが使われている」と連絡を受け、週明けの28日に2年生組教室を閉鎖。同組の生徒28人は代替教室で授業を受けている。また、校内点検の中で新たに5個の同型機器が見つかり、直ちに交換作業を行った。

ためこれ以上の確認は難しいと説明。同時に蛍光灯器具を交換した町内各小中学校、保育所など全築造点検する考えを示した。

洞爺湖町教委は、PCB事故の確認が遅れ、保護者の報告、今後の対応などの説明が28日にずれ込んだことについて陳謝。「父母からも対応が遅まると指摘された」と述べた。

【PCB】燃えにくく電気を通じにくいなどの特性をもつ油の一種。人工的に作られ、電氣製品のトランスやコンデンサーに使われていた。コンデンサーの使用が禁止されたのは1976年（昭和51年）10月。PCBによる中毒症状としては目や、口腔癌の発症が報告されている。2000年（平成12年）に東京・八王子市の小学校でコンデンサーの破裂事故が相次ぎ、PCBが飛散して児童に付着。以降、公的施設での交換が進んだ。



事故の経過を説明する洞爺湖町教育委員会の会見＝30日午後5時40分、洞爺湖町役場



破損した蛍光器具内のコンデンサー＝洞爺湖町教育委員会提供

天野英樹町長は「虻田中の蛍光灯器具の改修は01年1月に完了したが、一部に漏れがあったのかも知れない。当時の書類がない

# PCB中学生に付着

## 洞爺湖町 照明の安定器破裂

【洞爺湖】胆振管内洞爺湖町教委は30日、町立虹田中の教室の照明器具に使われていたコンデンサー(安定器)が今月8日に破裂し、有害物質のポリ塩化ビフェニール(PCB)が、生徒1人の頭と別が、生徒2人の衣服に付

着したと発表した。現時点で健康被害は確認されていない。町教委は30日から、当該教室にいた生徒全員の28人と、落下した部品などを処理した教職員5、6人の健康被害の有無を調べるため、健康診断と血液検査を始めた。

コンデンサーは蛍光灯の電圧を安定させる装置で、旧式の高電圧の絶縁性が高いPCBを内部に詰めている。国は2001年度中に旧式コンデンサーを公共施設から撤去するよう、自治体などに指導していた。町教委は、なぜ残っていたのか、調べている。

町教委によると、蛍光灯の照明器具内部で破裂音がした後、PCBの液体が生徒の上に飛び散った。器具の老朽化が破裂の原因とみられる。旧式のコンデンサーは校内で他の5基の照明器具にも使われていたため、いずれも撤去した。

町は今後、保育所や他の学校などにも残っていないか点検を急ぐ。